

14 身近にあった、「教育協働」の新たな形！凄いぞ！心ある人達！

堂本 彰夫

(1) 玉城青少年の家（主催）の「事例発表セミナー」にて見た、そして感じた、頼もしい姿・形！

昨日（9/30）、久しぶりに、ズームを使った「岳陽チャンネル（←教育協働セミナー）を作動させた！しかも、今回は、玉城青少年の家（主催）の「事例発表セミナー」に、我が「岳陽舎」と「那覇市繫多川公民館（NPO法人「一万人井戸端会議」の受託運営）」が協力するという（共催）、三者コラボ形式の実施であった！いつものように、会場参加とオンライン参加の、いわゆる「ハイフレット方式」で行ったわけであるが、会場が、那覇市内の「繫多川公民館」であったということもあり（ただし、オンライン参加の方が、圧倒的に多かったが！）、かなりの参加人数であった（その後の報告では、総数で40名だったという。）。

そこで、ここでは、予定していた論稿（「積分（学）」に見立てた「教育協働」の手順?!だが、やはり？それだけでは?!）を先送りにして（次号にて掲載予定!）、今回のセミナーの成果や意義（大きくは二つ?）を、私なりに整理して、以下、思うが儘に（今回は、結構突っ込みを入れて?）書き記していきたいと思う！ちなみに、今回の論稿は（特に最後の部分は?）、かなり野卑な?それとはなるうが、それは、これまでの、長年の思いでもあるが、参加者への、偽らざる思いであり、是非一度は、正式に?吐露しておきたいことでもある！

余談ではあるが、現役時代のそれは、たとえどうであろうとも、一緒に動いてくれる学生達（特にゼミ生達）の気づきや刺激、叱咤激励の機会となればということでもあったので、それ自体は、ほとんど甘受してきたものである（役職や立場を考えれば、それは、ある意味当然?そして、それが、私の仕事であり、任務でもあった?）?!しかしながら、今や、私には、そんなものは無用なのである！何の損得、忖度もなしに、我が思いを伝え得れば、それでよいのである！くどいようだが、事あるごとの、私の「思いある人」という言い方には（最近では、それが頻出!）、そうした思いが重ねられてもいるわけである！つまり、やる気や学習意欲があるだけでは、私の言う「思いある人」ではないのである（本音では、言いたくないのもある!）?!

ということで、まず、先号（13）では、「生涯教育（学習）論」における、いわゆる「統合（理念）」の一知半解について述べたが、そこでは、まさに「（教育）協働」に向けて、「客観的な事実としては、既にそうしたことは、動いているところは動いているし、ある意味、そのことは、『教育としての理の当然』なのではある?!」とか、言葉（概念）によるレトリックはともかく、「大事なことは、その時々において、そうした発想や取り組み（教育協働）によって、何らかの解決、そして、そのことによって誰かが救われる、喜んでくれる、そういうことが大切なのだということ」、

そして、しかも、「それは、あくまでも、その時々の問題・課題が解決されるということであって、新たな問題・課題が、目の前に飛び込んでくるということでもある?けれども、そうした視点・取り組み（教育協働）の方向性の意義を見失うことなく、また同じように、しかも繰り返し、みんなが力を合わせて立ち向かっていけばよいということでもある!『教育』とは、まさに、そういう営みであり（積分?）、それ故に、尊いものなのである!このことを、決して忘れてはいけない!それが、ここで言う『（必要な）「全体」「完全」「総和』』だということである?!」というようなことも書いていた！

(2) ある参加者からのメール！「社会教育士」が、学校という場所で融合していて面白い！

しかるに、今回の事例発表には、まさしく、そういうようなことが、既に実現、実行されていたのである！しかも、それが、公民館（NPO法人による受託運営）の職員（館長MさんとスタッフHさん）の思いと行動によって始められているのである！ここでは、それを詳しく紹介することは出来ないが（後日、この模様は、玉城青少年の家のHP上に動画アップされると思うので、関心のある人は、是非そちらを視聴して欲しい!）、これについては、たまたまオンライン参加出来た、K県で、小学校の教師をしている、愛称?「A（旧姓K）さん」からのメール感想を、是非紹介させてもらいたい（取り組みの大枠は、それで理解されよう?）！

ほとんどが、私堂本が、評価（確認）したいことでもあるので、敢えて掲載させてもらおう次第であるが、このような受け止め、考え方をしてくれる現場教師が、一人でも多くいることを、そして増えていくことを、切に念じているということでもある（事後承諾とはなりますが、Aさん、本当にありがとう!）！

…ここからは、私の今日の発見です。ハード面の事（授?）業や連携先にソフト面の社会教育士が学校という場所で融合していて面白い。教育課題からフォーカスすると個別の事例になり、こども食堂、不登校支援などなど、利用者が限定され、課題も多いから、場所、事業、予算などハード面を次々と増やさないといけない。でも、地域づくりからフォーカスすること「学校を核とした地域づくり」をすることでそれぞれがよりよく生きようと認知症カフェと放課後の子どもたちの居場所が共存できたり、公民館のサークル活動が不登校児の学びの場になったりと教育課題を包括的に対

処できるのかなあと思った。

I (敢えてイニシャル!) 先生の愛のある質問と言葉選びを久しぶりに聞き嬉しくなりました。教員の働き方改革ですが、日々の仕事に加えて、例年のやり方ではなく今年の子どもたちには、何が必要かと考え、外部講師を依頼した授業や校外学習の行程づくりなどに時間をかけている教員は多いです。地域まーい(回り)も個人でやり苦勞している先生は多いです。連携室にいる社会教育士に相談してヒントをもらうことは働き方改革になります。ここに地域がさらに活性化して、家庭力や学習のフォロー、増しては不登校児支援の心配を一緒に背負ってくれる仲間が増えたら、働き方改革大成功だと私は思いました。…

※括弧書きの部分は、堂本による。

改めて、これほどまでの受け止め方と理解がなされていることに、二重の意味で嬉しく思うし(一つは、もちろん、流石!我が教え子という喜び?ただし、別の参加者で、同じ小学校の教員をしているゼミ卒業生のT君は、非常に分かりやすいものでしたという感想を、別途伝えてくれているので、とりわけゼミ卒業生だからということもないのかな?とも思いますが?!)、何か、この取り組みが、新たな意義と可能性、強いて言えば「突破口?」を、そして、私の理屈?をはるかに越えて、みなさんに、大いなるインパクトとやる気(元気?)を与えたものであったことは、おそらく間違いないであろう!まさに、凄いぞ!心ある人達!ということである!

数年前に受講した社会教育主事講習(国社研主催)の演習時に、グループで考案した事業が芽だしであったということであるが、公民館のスタッフ(ここではHさん)が、社会教育士として学校に出向いて(週に、午前中だけ1回、終日1回)、「地域連携室」に常駐し(出前公民館→ある種の「分館活動」?)、教職員のみなさんや児童生徒、もちろん父母や地域のみなさんとのやり取り、交流の機会を設けて、学校の教育課程としてのプログラム実施を含めて、それこそ多種多様な連携・協力の取り組みを行っているということである!

(3) 改めて、今回のセミナーの意義、そして、可能性について?!

ところで、今回のセミナー参加者からのアンケート結果を、早速送ってもらった!概ね良好な評価を得ていたが、残念なことが、二つあった!一つは、事例や事例発表に対するコメントについてであるが、何か彼らは消費者(一方的なサービス享受者?)、あるいは、自分に益のあるものだけをつまみ食いするような形で参加しているようでもあった?!また、事情で、今回は「耳だけ」というようなことであろうが、可能な限り、声はともかく、顔だけは出して欲しいと言っても、そうしない人が多かった(分からないわけではないが!)?!

要は、これを機に、参加のみなさんとのつながり、協力関係づくり(情報交換やコラボ事業の起草等)を期待してのそれでもあるのに、なかなかそうしてくれない?!挙句には、無記名をいいことに、好き勝手を書く(その後も、何の音沙汰もない!)?!果たして、こういう人達は、本当に「心ある人」達なのであるか??繰り返し言うが、私達(少なくとも今の私)は、給料をもらっての、職務としての研修機会の提供者(例えば行政)でもなければ、参加費を取って、自分達の収益を上げるビジネス事業体でもない!どんな思い、どんな状態(運営・スタッフ体制)で、このようなセミナーを提供しているのか?そこを、分かって欲しい!

このように、自分(のところ)のやっていることだけを考えており、このセミナーとか、それを実現させている我々と(今回は、玉城青少年の家と繋多川公民館のスタッフが主であったが!)、今後、どのような協力・参画が可能なか等の、言わば仲間づくり、ネットワークづくりへの思いや、具体的な提案が、ほとんどないのである?!今までは、そういうことは、ある意味織り込み済みではあったので(本当は、その都度哀しい、否、悔しい思いをしてきたが!)、ここでは、敢えて、このようなことは書きたくないのであるが、特に、今の私には、そういう寛大な?受け止め方は、したくないのである!

しつこくもあるが、今回のような思いとセミナーの開催は、身分や処遇も不安定で(収入も少ない!私の場合はない!)、これをやったからといって、直接は報われない?人達による呼びかけであり、一緒にやりませんか、仲間になりませんかという誘いなのでもある!そこが分かっていない(否、分かっていない?)?!もちろん、個々の参加者も、土曜日の午前中の開催であるから、自らの参加も、それに類するものではあろうが、今、改めて必要なのは、そうした、各地各様で頑張っている人達の思いの、敢えて言えば広域的な結集であり、そのネットワークづくりなのである(それがなければ、やはり大きな力とならない!)!余計なことを言うようだが、それは、他ならぬ県の役割(責務)なのだが、それに期待(おんぶにだっこ?)するのは、現状では、なかなか厳しくもある?!だから、「思いのある人」達が、頑張ってやらざるを得ないのである?!

とは言え、最後になるが、「岳陽チャンネル(教育協働セミナーの後身)」の可能性について、今回のセミナーを通じて、改めて見出させてもらったことも事実である!このことも、一応きちんと書き記しておきたい!いつでも、どこでも、誰とでも、互いの思いとニーズによって、通信(ズーム交流。電話やメールも、それに含まれる!)が出来るということであるが、今回、そのような意義と、そして嬉しさを、つくづく感じさせてもらった部分もあるということである!これからも、可能な限り、そして、さらなる意義や可能性を広げるべく、老体に鞭打って?続けていきたいと思う!

(つづく)